

第5 学年外国語学習指導案

平成 30 年 11 月 1 日 (木) 2 校時

5 年 1 組 男子 17 名 女子 16 名

授業者 

1 単元名 She can run fast. He can jump high. — できること

2 単元目標

- 自分や第三者について、できることやできないことを聞いたり言ったりすることができる。また、文字には音があることに気づく。
- 自分や第三者について、できることやできないことを、考えや気持ちを含めて伝え合う。
- 他者に配慮しながら、自分や第三者についてできることやできないことなどを紹介し合おうとする。

3 言語材料

- Can you (sing well)? Yes, I can. /No, I can't [I / You / He / She] [can / can't] (sing well) .
 - 動作 (play [the recorder / the piano] ,ride a [bicycle / unicycle] ,swim ,skate ,ski ,cook ,dance ,run fast ,jump high ,sing well) ,can , can't ,he , she ,Mr. ,Ms. ,net ,omelet
- [既出] スポーツ、動作、日課、not

4 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと 〔やりとり〕	イ 自分のことや身の回りのものについて、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

5 単元について

(1) 教材観

本単元では、三人称に初めて出会う。これまで自分や相手のことについて話すことを学習しているが、他者のことを説明したいと思うのは自然な流れである。しかし、三人称の学習は中学生でもつまずきやすいのも事実である。そこで、動詞の変化を避け、本単元では助動詞 **can** を用いることで、児童に無理なく三人称を学習できるように工夫している。また、児童が **can** を用いてできることを認め合う活動を通して、他者を肯定的に捉えることででき、自己肯定感を高めることができる教材になっている。

(2) 児童観

本学級の児童は、明るく活発で、英語の学習に対しても意欲的に取り組む児童が多い。自らの考えを発表し、学級全体で共有することができる児童が一定数いる一方で自分の考えを持

っていないながら、なかなか進んで発表できない児童もいる。

児童は、これまでにスポーツ、動作、日課などの英語での表現を学習してきた。また、本単元と関わりのある活動として、他者にインタビューをする活動を国語や社会の学習で経験してきた。インタビューしたことをもとに、他者を説明することには慣れているため、本単元の活動はスムーズに進むことが期待できる。

(3) 指導観

指導にあたっては、Jingle を取り入れることで、楽しく子ども達の語彙を増やすことを目指す。また、発音を聞く、真似て発音することで文字や単語のイメージをつかませる。また、本単元では can を初めて学習するため、語句の意味を教え込むのではなく、歌やジェスチャーを通して、感覚的に理解することができるように指導する。

この単元では、一般動詞が多く出てくるため、ポインティングゲームなどを取り入れ、繰り返し単語の意味を確認し、自分や他者ができることを英語で表現できるようになることを目指す。さらに、インタビューを取り入れることで Can you ~? の疑問文を使うことに慣れると同時に、He can ~./ She can ~. といった三人称の学習にも発展していく。小学校5年生で三人称の表現になれることで、後の学年でつまづく子を減らしていくことが期待できる。

6. 指導計画 (全8時間)

時数		○主な学習活動	◇評価の観点 (方法)
第1次	1 2	教科書 p 34~35 から、単元の見通しを持ち、どの動物が、何ができるのかを理解する。また、動物の英単語に慣れる。	【知識・理解】どの動物が、何ができるのかを聞き取り、ワークシートに記入している。
第2次	3 4	「できる」「できない」を表す表現に出会い、友達への軽いインタビュー活動を取り入れることで、can の表現に慣れる。	【知識・理解】can の表現を理解し、聞くことや話すことができる。
第3次	5 6	三人称を説明する表現ができるよう、家族や学校の先生にインタビューを行う。	【関・意・態】身近な人へのインタビューを行い、説明しようとしているかまとめることができる。
第4次	7 8	身近な人へのインタビューしたことをまとめ、他者に説明する活動を行う。	【関・意・態】インタビューしたことを他者に向けて、発表することができる。

7 本時の学習

(1) ねらい

- ・友達にできるか、できないかをインタビューしよう。

(2) 準備

- ・絵カード、電子黒板、ワークシート

(3) 本時の展開 (3/8)

過程	学習活動	HRT	評価観点
導入	① Greeting&Jingle ② Let's Chant ③ 前時を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ Animal Jingle で発音の練習や楽しく学習する意欲を持たせる。 ・ 歌と映像から本時の学習を大まかにつかませる。 ・ 前時での学びを確認し、本時とのつながりを意識させる。 	
展開	④ p 36 の問題を解く。 ⑤ 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ can とその後に続く動詞を聞き取り、だれが、何ができるのかを注意して聞き取るように促す。 ・ 本時の学習の見通しをもたせる。 	
	友達に～ができるか尋ねてみよう。		
	⑥ 動物当てゲームを行う。 ⑦ ポインティングゲームを行う。 ⑧ Activity 1 を行う。 ⑨ 尋ねた結果を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「Can you ~?」 を使い、質問の仕方を練習する。 ・ 答える方として、「Yes, I can./No, I can't」 を使えるよう練習する。 ・ ジェスチャーをとり入れることで、感覚的に can と can't の違いをつかませる。 ・ ~の部分にあたる一般動詞を確認することで、尋ねる時の語彙を増やす。 ・ 友達にできることを尋ねる、答えることができているか机間指導を行う。 ・ 「He can ~./She can ~.」 で紹介することで、次時につなぐりを持たせる。 	【知識・理解】 can の表現を理解し、聞くことや話すことができる。
終末	⑩ 振り返りシートを記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間があれば、今日学んだことを全体の場で共有する。 	

Unit 5 She can run fast. He can jump high.

Name _____

()さん

できる



できない



()さん



()さん

